

要約練習用文献リスト

- 新井紀子 (2018). 『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』東洋経済新報社
- バトラー後藤裕子 (2015). 『英語学習は早いほど良いのか』岩波新書
- 藤永 保 (2001). 『ことばはどこで育つか』大修館書店
- 羽生善治 (2005). 『決断力』角川書店
- ハンセン、A. (2021). 『スマホ脳』新潮新書
- 橋本健二 (2018). 『新・日本の階級社会』講談社新書
- 一川 誠 (2016). 『時間の使い方を科学する』PHP 新書
- 市川伸一 (2013). 『勉強法の科学—心理学から学習を探る』岩波書店
- 飯山 陽 (2021). 『イスラム教再考』扶桑社 BOOKS 新書
- 池上 彰 (2002). 『大人も子どももわかるイスラム世界の「大疑問」』講談社+新書
- 池上 彰 (2007). 『そうだったのか！現代史』集英社
- 池上 彰 (2007). 『そうだったのか！現代史』集英社
- 池上 彰 (2021). 『知らないと恥をかく世界の大大問題 12』角川新書
- 池上 彰 (2022). 『20歳の自分に教えたいお金の基本』SB 新書
- 池上 彰、佐藤 優 (2015). 『大世界史—現代を生き抜く最強の教科書』文芸春秋
- 池谷裕二 (2006). 『脳はなにかと言いつくす』祥伝社
- 池谷裕二 (2012). 『脳には妙なクセがある』扶桑社
- 池谷裕二 (2013). 『単純な脳、複雑な「私」』講談社
- 今井むつみ (2016). 『学びとは何か—探究人>になるために』岩波新書
- 門倉貴史 (2010). 『本当は嘘つきな統計数字』幻冬舎新書
- 苅谷剛彦 (2012). 『アメリカの大学・ニッポンの大学』中公新書ラクレ
- 苅谷剛彦 (2012). 『イギリスの大学・ニッポンの大学』中公新書ラクレ
- 苅谷剛彦 (2020). 『コロナ後の教育へ—オックスフォードからの提唱』中公新書ラクレ
- 刈谷剛彦、増田ユリヤ (2006). 『欲ばり過ぎるニッポンの教育』講談社現代新書
- 加藤陽子 (2009). 『それでも日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社
- 河合雅司 (2018). 『未来の年表—人口減少日本でこれから起きること』講談社新書
- 河合雅司 (2020). 『「2020」年後—新しい日本の話をしよう』講談社
- 川島隆太 (2018). 『スマホが学力を破壊する』集英社新書
- 北野良子 (2017). 『論理的思考力を鍛える 33 の思考実験』彩図社
- 児玉光雄 (2006). 『なぜモチベーションが上がらないのか』ソフトバンク新書
- 久保田竜子 (2018). 『英語教育幻想』ちくま新書

- 久米昭元、長谷川典子 (2007). 『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣
- 前野ウルド浩太郎 (2017). 『バツタを倒しにアフリカへ』光文社新書
- 前坂俊之 (2010). 『明治三七年のインテリジェンス外交』祥伝社
- 松岡亮二 (2009). 『教育格差—階層・地域・学歴』ちくま新書
- メイナード、K. 泉子 (2009). 『ていうか、やっぱり日本語だよ。』大修館書店
- 森島泰規 (2015). 『なぜ外国語を身につけるのは難しいのか』勁草書房
- 内藤正典 (2012). 『イスラームから世界を見る』ちくまプライマリー新書
- 中村圭志 (2010). 『教養として学んでおきたい5大宗教』マイナビ新書
- 中田 考 (2017). 『イスラーム入門』集英社新書
- 行方昭夫 (2014). 『英会話不要論』文春新書
- 中室牧子、津川友介 (2011). 『原因と結果の経済学』ダイヤモンド社
- 21世紀研究会 (2003). 『色彩の世界地図』文藝春秋
- 西林克彦 (2005). 『わかったつもり—読解力が見つからない本当の原因』光文社新書
- 西野仁雄 (2008). 『イチローの脳を科学する—なぜ彼だけがあればほど打てるのか』冬幻舎
- 岡田昭人 (2019). 『オックスフォードの学び方』朝日文庫
- 岡田斗司夫 (2007). 『「世界征服」は可能か?』ちくまプライマリー新書
- 岡本浩一 (2002). 『上達の法則—効率のよい努力を科学する』PHP 新書
- 斎藤 孝 (2001). 『「できる人」はどこがちがうのか』ちくま新書
- 斎藤 孝 (2006). 『質問力』ちくま文庫
- 斎藤 孝 (2006). 『段取り力』ちくま文庫
- 斎藤 孝 (2015). 『語彙力こそが教養である』KADOKAWA
- 酒井邦嘉 (2011). 『脳を創る読書』実業之日本社
- 三森ゆりか (2003). 『外国語を身につけるための日本語レッスン』白水社
- 更科 功 (2018). 『絶滅の人類史—なぜ「私たち」が生き延びたのか』NHK 出版
- 佐々木紀彦 (2011). 『米国製エリートは本当にすごいのか?』東洋経済新報社
- 渋谷昌三 (2014). 『電車の中を10倍楽しむ心理学』育鵬社
- 白井恭弘 (2008). 『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』岩波新書
- 橘木俊詔 (2010). 『灘校—なぜ日本—で有り続けるのか』光文社新書
- 谷口一郎 (2007). 『データはウソをつく—科学的な社会調査の方法』ちくま書房
- 竹内 薫 (2006). 『99.9%は仮説—思い込みで判断しないための考え方』光文社新書
- 竹内 理 (2007). 『達人の英語学習法—データが語る効果的な外国語習得法とは』草思社
- 瀧本哲史 (2011). 『僕は君たちに武器を配りたい』講談社
- 瀧本哲史 (2016). 『ミライの授業』講談社

- 寺沢拓敬 (2015). 『日本人と英語の社会学』 研究社
- 外山滋比古 (1986). 『思考の整理学』 ちくま文庫
- 山岸俊男、M.C. ブリントン (2010). 『リスクに背を向ける日本人』 講談社新書
- 吉田新一郎 (2006). 『テストだけでは測れない！—人を伸ばす「評価」とは』 NHK 出版
- 好井裕明 (2006). 『「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス』 中公新書